誠実な研究活動の推進に向けて

本学では、真理の探究と学術の進展に寄与する研究活動が、知的誠実さと研究倫理に根ざして行われることにより、大学の社会的信頼の根幹を形成するものと考えています。研究成果は、個々の研究者の長年にわたる努力と知的営みによって成り立つものであり、これを損なう研究不正行為は、学問の信頼性と社会からの評価を大きく損なう深刻な問題です。

2014年、文部科学省は「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を公表し、研究不正の未然防止等のための体制整備が各研究機関に求められるようになりました。このガイドラインに基づき、本学においても研究倫理教育の充実、責任ある研究活動を支える環境整備、相談体制の整備等の強化を進めています。

研究に携わるすべての皆さんが、知的な「公正」「誠実」「責任」を基本に、日々の研究活動に向き合うことが、信頼される大学としての礎となります。私自身も先頭立って、研究活動の健全性を確保し、社会の負託に応える環境の整備に尽力してまいります。

研究活動が、国が示すガイドラインや本学が定める「公的研究費不正防止に関する基本方針」等の学内ルールを踏まえて適切に遂行されることによって、初めて公正で誠実な研究活動が実現されます。すべての構成員がこれらの規範を理解し、遵守する姿勢を持つことが、信頼される大学づくりと持続的な学術発展につながります。今後とも、公正で誠実な研究活動の推進に向けて、共に歩んでいきたいと思っております。

2025年4月

学長 辻中 豊